
Vol. 10

月信

R.I.D 2650

2002.4.15

夢とあこがれをもった青少年を育てよう

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎



ロータリーへの思いは人それぞれによって違いがありますが、ロータリーの綱領のもとに集うロータリアンは皆、奉仕への情熱を抱いて活動しています。

初めて宇宙から地球を見た宇宙飛行士のガガーリンは「地球は青い」と表現しましたが、宇宙から見れば地球は小さく、そこに生きる人類はさらに小さい存在でありましょう。しかし、地球に生を受けた人類がロータリーの理念で手をつなぎ、輪を拡げれば、どんなに大きな存在になるでしょうか。

職業を活かして奉仕をするロータリアンも時代とともに変化し、各自の自己奉仕を根底に皆で奉仕活動をするようになりました。本年度リチャード D. キング国際ロータリー会長のテーマ「Mankind is our business - 人類に奉仕することが私たちの仕事 - 」は、我々に多くの活動方針を示しました。

ここで、次世代を担う若人に才能と熱意を喚起し、奉仕と責任感を育てることを目的とした新世代のためのロータリープログラムについて焦点を当てたいと思います。

各クラブでは新世代を託す青少年のさまざまな問題に熱心に取り組んでおられます。また、ガバナー賞に選ばれた15クラブのすべてが、青少年に向けての活動をしておられます。例えば、王寺ロータリークラブでは、青少年たちの考え方を理解して、お互いの信頼の絆が深まることを願って「少年の主張」と題して中学生の意見を発表する機会をもたれています。王寺中学校3年生塩見嘉奈子さんの『生きていくこと』の文章を読み、深く感動しましたので、ここにその一部を紹介します。

私がここに生きているということは、私を産み育ててくれた父や母がいること、その前のたくさんの方々が、今日までに命という何より重いものを繋いできてくれたことに感謝しなければなりません。

私が今何のためにここに存在するのか、命を授かったことの意味をよく考えて、ささやかなりとも自分と誰かのために生きていく力をつけなければならないのではないのでしょうか。

21世紀を迎えて、中学生の私が21世紀を自分らしく生きていくために、学力を蓄え、心を磨き、そしてすばらしい女性として輝いていきたい。私は日本に生まれてよかった。これからはもっと視野を広げ、グローバルな地球人として生きたいと思っています。

現在、次世代へ向けてのロータリー活動は、将来リーダーシップを発揮し得る、優れた青少年にのみ焦点を当てている感がありますが、果たしてこれでよいのでしょうか。このように夢をもった青少年たちすべてに目を向けていくべきだと思います。

ロータリーの実践哲学を分かりやすく次世代に伝えるとともに、「夢とあこがれ」のある青春を過ごしてほしいと切に願います。

純増2人を確認！ 第3回会員増強・退会防止セミナー

地区会員増強委員会 委員長 大久保 昇（京都西南RC）

3月9日（土）国立京都国際会館に於て、西村ガバナー始め関係地区役員、各クラブ会長、増強・退会防止委員など263名の出席を得て開催されました。

西村ガバナーによる来賓・役員の紹介、開会挨拶につづいて津田佐兵衛諮問委員から、セミナー開催の趣旨説明が行われました。

討論に先立ち、宮崎茂和M.Z.C.の講話があり、日本のロータリー会員数の推移（減傾向）・2001～02年度当初6ヶ月の地区会員数の推移（2650地区の会員減は-27人でワースト第1位）・過去3年間における2650地区の会員数の推移を示すグラフをもとに、地区の会員増強活動とともに退会防止活動の重要性を強調され、地区の各クラブでは「純増2人」を目標に取り組んでいただきたいと要望されました。

つづいて、大久保昇会員増強委員長および平井義久退会防止委員長から、担当委員会の現況報告と提言があり、それらをもとに活発な話し合いが行われました。

《協議事項》 - 下半期における各クラブの増強活動の目標。

地域での奉仕活動を活発にすることで、地域のロータリーに対する理解を深め、イメージアップを図る。

職業分類表の有効利用、新職業分類の開拓とともに、若い年齢層、女性層の入会を積極的にすすめる（女性地区委員や会員から勧誘具体例の報告とともに、女性会員のいないクラブの増強活動への要望が出された）

ロータリアンの高齢化対策を考える。 出席免除、休会制度（分担金徴収、例会費免除）等。

退会防止のための休会制度については、国際ロータリーの規定にかかわる事項なので、規定審議会に提案することにしたい（平井委員長）

新クラブの設立。 3月21日に発足する福井あじさいロータリークラブから経過と設立の報告（淡島洋幹事）があった。地区としては新クラブ設立に積極的に協力し、拡大を図ることで、会員増強につなげたい。

退会防止、会員増強にかかわる会員や地域への広報活動の充実。

閉会の挨拶の中で西村ガバナーは、各クラブではロータリーイメージの向上をめざし、セミナーでの協議事項を十分に検討していただき、実行可能な増強活動をすすめていただくことで、年度末の純増2人を実現していただきたい、と強調され、「退会防止委員会がなくなったとき、ロータリーは向上している」と挨拶を結ばれた。



小さな花が寄り添って大きな一輪の花に 福井あじさいロータリークラブチャーターナイト

福井あじさいRC 幹事 淡島 洋

地区92番目のクラブとして誕生

3月21日(祝・木)、ユアーズホテル・フクイに於て、地区92番目のクラブとして誕生。西村ガバナー、地区拡大諮問委員 山田パストガバナー、吾郷地区拡大委員長、黒川特別代表(福井RC)、スポンサークラブである福井ロータリークラブ宇野会長はじめ、福井県知事、福井市長、パストガバナー、地区役員、地区内外のロータリアンと多くの来賓、来客を迎え、認証状伝達式が開催された。

黒川特別代表の点鐘は、千宗室R財団トラスティ元R.I.理事の直筆、「清和」と揮毫された鐘。深く余韻を残す、福井あじさいR・Cの輝く未来を予告する素晴らしい音色であった。

来賓、来客、参加クラブの紹介、設立報告、西村ガバナー挨拶。厳粛に認証状伝達が行われた。

富田初代会長の「小さな花が寄り添って大きな一輪の花に」と挨拶があり、会員一人ひとりを紹介。誰の顔にも強い決意と情熱が溢れていたようであった。

記念事業として、ロータリー財団への寄付、(財)ロータリー記念米山奨学会への寄付、ミヤンマーの小学校校舎建設資金への寄付、あじさい56本をカルチャーパークに植樹、結城RCと友好クラブ締結などが発表された。

祝宴は、宝生流・謡曲「岩船」で幕があがり、鏡開きと、祝宴は慶びの宴となり、福井あじさいロータリークラブの光輝く船出となった。

創立総会は、昨年12月14日(金)。チャーターメンバーは56名、例会場は福井県国際交流会館、例会日は金曜日(12:30-13:30)です。

今後共、先輩ロータリアン各位のご支援、ご指導を心よりお願い申し上げます。チャーターナイトには多数のご出席をいただきありがとうございました。



特別代表 黒川誠一
(福井RC)



会長 富田正通



幹事 淡島 洋



京都洛西ローターアクトクラブ設立なる

京都洛西ローターアクトクラブ設立総会式典及び懇親会

京都洛西ロータリークラブ大野暉八郎会長、古川浩二ローターアクト設立実行委員長のもと、3月10日（日）京都全日空ホテルに於きまして「京都洛西ローターアクトクラブ」設立総会が、多数のご来賓のご出席を得られ総勢140名の出席者の中、盛大かつ厳粛に執り行われました。

まず会場は京都洛西ロータリークラブの茶道同好会の方々によりまず呈茶席で迎えられ、心温まるおもてなしに出席者からは感嘆の声があがっておりました。続いて始まりました式典では西村ガバナーを初めとすご来賓のロータリアンの方々より激励の言葉が、新アクター達にかけられ、山下ローターアクト地区代表からは先輩としてまた新しい友人として、ローターアクトでの活動がもたらす喜びと感動を自らの経験を踏まえてお話をされるなど、厳粛な雰囲気

に皆、気が引き締まる思いであったことと思います。また懇親会では、当地区広報雑誌委員長であり京都洛西ロータリークラブの会員でもある伊藤哲雄様率いる「ロタムジカRAKUSAI」によりまずミニ・コンサートで、式典の緊張も解け、心しみ温かい雰囲気の中で親睦を深めあい、楽しいひとときを過ごすことができました。

以上のように、京都洛西ロータリークラブ会員の新アクターに対する愛情が随所にこめられたこの設立総会は、素晴らしいものであったことをお伝え致します。

当地区内としては、38番目のローターアクトクラブとなります京都洛西ローターアクトクラブ、伊藤愛会長予定者以下25名の若さ溢れる活力漲るチャーターメンバーは次なる世代のリーダーとして大きく育ちはばたいていくことでしょう。

京都洛西ロータリークラブは次年度20周年を迎えるにあたって、提唱しておられます花園高等学校インターアクトクラブ、そして今回設立されました京都洛西ローターアクトクラブと三つ巴のクラブに成長し、さらに奉仕の輪が広がり活力あるクラブとして飛躍されることを期待致します。



結成調印式



お呈茶席の様子



大野暉八郎会長式典でのご挨拶



ロタムジカRAKUSAIの皆様

ロータリアンの皆さん、ロータリー財団で共に夢を見ましょう！

地区ロータリー財団増進委員会 委員長 公文 俊一（京都北東RC）

平素より財団増進活動に多大なるご理解ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。ロータリー財団へご寄付される行為は、ロータリアンの皆様のお一人お一人の温かいお気持ちが、この世界に広がっていることに他なりません。

その中でもロータリー財団へ多大なるご貢献を頂いたメジャードナー（2001年5月～2002年3月）の方々をご紹介します。メジャードナーの方々の言葉は、どんな説明より財団の必要性、財団への夢が雄弁に語られていると存じます。

これからもロータリー財団へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

「冠名基金」賞



千 宗室（京都）

1998～2002R.I.ロータリー財団管理委員に就任し、国際ロータリーがこの世界で為さねばならぬ奉仕活動の大変さと、それを支えるロータリー財団への寄付の大切さを痛感していました。世界平和と人類の奉仕のために、少しでも役に立つならと冠名基金を致しましたところ、賞を頂き感謝している次第です。



大久保 昇（京都西南）

あと1回の寄付で大きな目標（冠名奨学金基金）に到達すると聞き、小生がここまでこられたのもロータリーの仲間のおたまたかい友情のお陰と感謝しております。日本も社会貢献が当たり前になってきました。これからも人様のお役に立つことを目標に生きていと思っています。

「クリスタル」賞



松村 憲一（大津東）

折々の少額の寄付でも、継続している間に到達したというのが実感。更に次に。



島崎 俊夫（京都西北）

「ロータリーの原点は現場にあり」と信じて、「前例がないからやってみよう」と常々思っています。受賞は光栄です。



福井 義男（京都南）

世界平和と理解のためのロータリー活動の基金に、少しでも寄与できましたことを誇りに思っています。



黒川 満（福井南）

- 今日を喜び明日の幸せを祈って -

ロータリアンとして社会に奉仕できることの幸せを思い、些少ですがお役に立てたい。



西川 克巳（京都乙訓）
コメントなし



宮村 久治（京都南）
コメントなし：ご逝去

「遺贈友の会」入会者



林 甫（京都洛南）



織田 敏嗣（京都田辺）



平川 泰厚（京都山城）

研究グループ交換 (Group Study Exchange) 私たちの地区は

地区G.S.E.委員会 委員長 佐野 貞夫 (京都八幡RC)

“とても近くなったジョージア”(第6910地区)

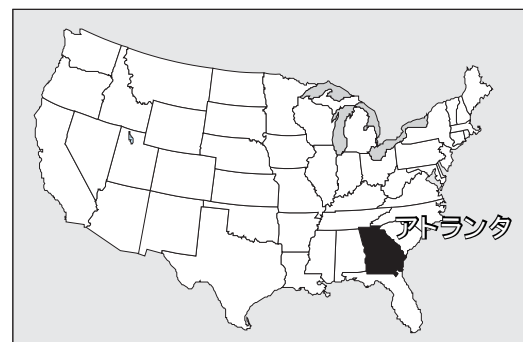
1996年近代100周年記念オリンピックの舞台となったアトランタ。親日派の多い州で、鹿児島県、福岡市、黒部市、桐生市、宝塚市と姉妹県、友好都市提携を結び、日本企業も300社を超える。日本とはゆかりの深い州。情報先端テクノロジー・シティ、アメリカの物流中心都市、州としての役割をたし、世界主要都市、全米との最大級のフライトを結ぶ国際都市として発展しています。



ロータリアン各位の熱意ある歓迎をお願いします。

受入日程

	ホストクラブ
4月3日(水)～4月9日(火)	大和郡山RC
4月9日(火)～4月14日(日)	丸岡RC
4月14日(日)～4月15日(月)	広島地区委員会
4月15日(月)～4月20日(土)	びわ湖八幡RC
4月20日(土)～4月25日(木)	京都中RC
4月25日(木)～4月29日(月)	京都城陽RC
4月27日(土)～4月28日(日)地区大会出席	
5月1日(水)	帰国



受け入れメンバープロフィール



団長
Dr. STARKEY



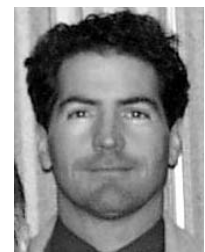
団員
Mr. JONES



団員
Ms. RESPESS



団員
Ms. THOMAS



団員
Mr. MULLINS

団長 通称：Von (ヴォン) Dr. Vonley Starkey

保険会社社長 前職は教師

団員 通称：Bill (ビル) Mr. H. William (Bill) Jones

消防署長

団員 通称：Lou (ルー) Ms. Mary Lou (Lou) Respass

警察署の犯罪調査官

団員 通称：Terris (テリス) Ms. Terris Thomas

バプティスト派教会の青年部牧師

団員 通称：Stan (スタン) Mr. Stan Mullins

水彩画と彫刻の芸術家

2650地区派遣団日程

4月6日(土)	関空発 UA810便 15:45 サンフランシスコ経由 アトランタ ジョージア6910地区 5月1日(水)まで滞在
5月1日(水)～5月11日(土)	ニューヨーク、ロサンゼルス等研修
5月12日(日)	関空着 UA809便 15:45

国際親善のために 米山奨学生終了式

地区米山奨学委員会 委員長 大島 正光 (高島RC)



3月1日(金) ホテルグランピア京都に於て、西村ガバナー、米山諮問委員 坂部パストガバナー、小竹地区米山担当幹事、中文学友会会長、各クラブカウンセラー、地区委員のご出席を得て米山奨学生の終了式が挙行された。

終了生は34名で、西村ガバナーより各奨学生に終了証書が授与され、ロータリー精神で、研究に業務に努力して欲しいと奨励され、京都大学の奨学生の尹最俊さんより、米山奨学生として、ロータリアンの皆様に対し感謝とお礼の言葉が述べられた。ロータリークラブで学んだ奉仕の心と、異文化理解の精神で世界平和に貢献し、日本との懸橋となりたいと、答辞の挨拶があった。

米山奨学会の事業が、国際親善を担うこと大であると確信しております。

R.I.2004年国際大会(関西)概要 予定

2004年国際大会実行委員会 事務総長補佐 小林 哲夫 (京都南RC)

会 期	本会議	2004年5月23日(日)~26日(水) 4日間
	関連行事	5月20日(木)22日(土)/27日(木)・京都デー
会 場	開会式・閉会式・本会議	大阪ドーム
	参加人数	40,000人(家族共)
	海外参加	15,000人 国内参加 25,000人
	大会諸会合	大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル等
	関連する諸会合	京都市内
	大会委員長	千 宗室 R.I.元理事・ロータリー財団トラスティ
	大会実行委員長	近藤雅臣 D2680パストガバナー
	大会事務総長	吉川謹司 D2660パストガバナー

R.I. 2004年 国際大会(関西)実行委員会事務局 開設
〒541-0056 大阪府中央区久太郎町2丁目5-28 大和銀行久太郎町ビル4F

おたずね

ジュネーブのWHOから問い合わせがきました。WHOに、300,000円寄附された日本人がおります。ROTARY JAPANとのみ書かれており、個人なのかクラブなのか、地区なのかわかりません。ご連絡いただければWHOがお礼を申し上げたいというものです。お心当たりの方はガバナー会事務局まで。

TEL 03-3433-6497 FAX 03-3433-7395 E-mail govkai@orange.ocn.ne.jp

R.I.次年度会長テーマ 慈愛の種を播きましょう

2002～2003年度 会長エレクト研修セミナー開催

次年度大会集会 幹事 寺田 康宏(奈良RC)

「慈愛の種を播きましょう」R.I.次年度会長のテーマの下に、西村ガバナーの力強い開会点鐘で会長エレクト研修セミナーが3月2日(土)奈良県新公会堂に於て開催された。

ガバナーの誠意ある励ましのお言葉に、出席者の身が引き締まる。岡村ガバナーエレクトより、アナハイムでの研修報告があり、「慈愛の種を播きましょう。常に心して歩いた後に平和な花を咲かせましょう」と次年度に対する思いを熱っぽく語られた。

基調講演では、ロータリー財団管理委員、R.I.元理事千宗室氏が「ロータリーへの思い」と題して、気品ある哲学的、宗教的な奥深い講演で、特に「六道」についての話は会員の心の琴線に深く触れた。

研修リーダー大日方パストガバナーのご指導の下に、分科会を開催。自分のクラブに、自分の職場に、地域社会に、世界に、青少年に各々「慈愛を種を播きましょう」とのテーマの下に協議。9人のグループリーダーの発表があった。大日方研修リーダーには、誠実なお人柄のにじみ出た、微に入り細にわたるご指導を受けた。

盛りあがった懇親会では、ご出席頂いたパストガバナー諸氏、ガバナー補佐諸氏、スタッフの方々と共に全員で地区の結束を確認し、友情の輪を広げることができた。



「ロータリーの友」創刊50周年を迎えます

ロータリーの友地区委員 中川 博補(京都南RC)

4月は、ロータリー雑誌月間。雑誌なら「友」ということになります。

喰わず嫌いということがありますが、「友」を読まず嫌いにならず、一頁でも開いてみましょう。勿論ロータリーに関する情報が溢れていますが、生活の智恵なるものもあり、あなたにきっとお役に立つものばかりだと思います。

2003年1月、「友」は創刊50周年を迎えます。新年度から、内容など見直し変更になります。

見直し変更として

公式地域雑誌という使命と役割を果たすために、ロータリアンの世代の変化も考慮しつつ、幅広いロータリアンを意識し、新会員に対する啓蒙にも比重を置き、大文字化、視覚化を配慮した、読みやすい誌面づくりをする。

IT時代の情報提供という観点から、電子情報と文字印刷情報の住み分けを意識した編集。会員減少による販売部数の減少等の理由から、コストダウンをはかる。活版から写植へ、そしてコンピュータ編集へと、時代の変化とともに、編集方法の技術的な変更に対応。

現状のB5判をA4変型判。本文は、記事中カラー広告と違った紙を使っているが、紙を統一、台割を単純化しコストダウン。広告等を含めた総頁数を、88頁を基本(現状は広告を含めて110頁前後)。横組み・縦組みとも、最初の8頁をカラー頁。横組みのトップにはカラー写真の頁(「Rotary at Work」と「新世代の頁」)。縦組みトップには、「わがまち わが地区」と「Speech」を入れる。横組みに「新会員の頁」を新設する。縦組みに現在の「友愛の広場」「談話室」「投書箱」の区分けを変更。「エッセー」「ロータリー活動のレポート」「意見交換」の3つの欄から構成し、それぞれの欄の名前を検討。創刊50周年の記念の年度として、1年間、創刊50周年にちなんだ特集を連載するなどです。

「友」地区委員の仕事として、毎号発行される「友」のレポート提出。「わがまち わが地区」「地区のたより」の執筆。2ヶ月に一回開催される委員会(会場:東京)に出席して「友」に対する建設的な意見や私見を述べなければならないことやディスカッションなどがあります。

2650地区IT化の現況と 「クラブホームページ制作ガイド」のお知らせ

地区DICO インターネット委員会 委員長 **志村 修** (大津東RC)
shimura@rid2650.gr.jp

近來R.I.からの情報伝達経路として、インターネットによるものがますます重要性を増しております。過日の規定審議会でも、公式地域雑誌とともにウェブサイトの情報伝達媒体としての役割が与えられました。今後この二つの媒体は特長を生かし協力しあいながら、ロータリーの正しい情報を迅速に伝えるようになるものと考えられております。日本においてはRJW(ロータリー・ジャパン・ウェブ)がR.I.公式ウェブサイト <http://www.rotary.or.jp/> として活動致しております。2650地区インターネット委員会ではRJWと連携を取りながら地区ウェブサイト<http://rid2650.gr.jp/>より情報発信しております。

昨年度R.I.会長とガバナーを結ぶ情報伝達役員としてDICOが選出されましたが、年度が変わるにつれて、R.I.のシステムから消え、そこで板橋R.I.理事、中村ロータリーの友委員長、田中RJW委員長の各氏の呼びかけによりこの機能を復活し、RJWで発表された情報を地区で受け、ガバナーに直ちに伝える役員DICOと、それをクラブで受ける役員CICOの制度が日本に限り継続復活致しました。当地区も西村二郎ガバナーより私、志村修(大津東RC)が昨年に引き続きDICOの委嘱を受けました。当地区ではクラブへの伝達役員CICOは特に任命せず、代わりに「2650地区通信ML」で現在83クラブの事務局にR.I.や地区からの最新情報を配信しております。地区ウェブサイトの中にICO NEWSコーナーを設けまして、ロータリーの最新会員数などを集めた「ROTARY NOW」や、ロータリーの『友』インターネット速報なども掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。

ガバナー事務所の方針であります、経費節減のためのペーパーレス化に対応。資料をインターネットから取り寄せることができる「ダウンロードセンター」を設けておりますのでご活用下さい。

地区内クラブのみなさまに地区IT化推進にご理解をいただき、78クラブにEメール取得いただき、86%のクラブと電子メールによる情報交換ができるようになりました。地区インターネット委員会では電子メール配信率100%を目指しております。宜しくご協力の程お願い致します。

リチャード・キングR.I.会長は、ロータリーを広報するための手段としてクラブでホームページを活用するように指導。委員会では多くのクラブにホームページを開設していただくように推奨してまいりましたが、3月現在地区内30クラブがホームページを開設されています。日本国内では約470クラブ(20%)の開設となっており、ホームページ開設の流れはますます加速するものと考えられます。委員会ではクラブがホームページを開設する際の支援策として「クラブホームページ制作ガイド」(<http://rid2650.gr.jp/ClubWeb/>参照)を作成致しました。まだ完璧ではありませんが、クラブでホームページを開設される場合の参考にいただければ幸いです。

文庫通信 「ロータリーとは何か」

「ロータリーとは何か」(「続 私の足跡」より抜粋)	小田一昭 熊本南R.C.	1982	11頁
「ロータリークラブ誕生物語(台本)」	小田原北R.C.	2002	16頁
「これからのロータリー」(「D.2500地区史」誌上フォーラム)	七戸幸夫・他8人	2001	6頁
「21世紀のロータリー」(D.2740地区大会ロータリーセミナー)	田中 毅	2001	4頁
「ワンダフルなクラブ・ライフはどう作る？」 (D.2540地区大会記念フォーラム)	京野 学・他5人	2001	11頁
「点鐘灯」	鍋縞俊樹	2000	79頁
「ロータリー情報 広報ABC」	朝霞R.C.	2000	93頁
「続 ロータリアンをめざして」	土肥浩右	2001	345頁
「What is 職・業・奉・仕」	大阪大淀R.C.	2001	

41頁

[申込先：ロータリー文庫]

〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7階 TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506

クラブだより

携帯電話を考える集い

青少年委員長 田中 平八
(京都田辺RC)

携帯電話の使用方法が、社会問題となっ
ています。情報化社会の中での、最も手
軽で便利な筈の携帯電話が、誤った方
向の利用方法に向かうと、若い命が奪
われたり、援助交際や麻薬の購入等の
犯罪に結び付き、悲しい事態となっ
て、青少年に襲いかかっています。授
業中でのメール交換は、授業の妨げに
なりはしないか、また「出会い系サイ
ト」や「ワンギリ」等の企業の商業主
義に子供達が毒されていないか。

2月2日(土)、京田辺市社会福祉セン
ターで約110名が参加。パネルディス
カッションを行った。

教育関係者、保護司、少年院元院長、
警察官、PTA代表、ロータリアンの方
々、父母や子供達を交え、パネル討
論して、多数の中学生からも意見
を求めた。

日本の総人口の半数を超える約6700
万台の携帯電話が出回り、小、中、高
生の利用状況を報告。保護者が「子
供の安全を確認する道具として役立
つ」など便利さを認める意見も出た。
一方、田辺署の橋本和法生活安全課
長が、昨春、管内で起きたメル友殺
人事件に触れ「便利さと危険は表裏一
体」と注意を促した。中学生からも
「必要な時だけ注意して使用する」
「乗り物や病院等で特に使用を止め
る」「時と場所のマナーを守る」な
どの活発な意見が出て、2時間半に
わたる活気に満ちたフォーラムを終
えた。



所感 今時の若者
達とは批判する前
に、常に指導的立
場にあることが、
我々ロータリアン
の責務である。

生まれて初めてのスキーを 友好クラブの子弟に

会長 西村 啓治
(福井フェニックスRC)

当フェニックスRCと台北陽光RCとの交
流は1997年春、時の黒川昭元幹事
を中心に、森隆氏、前阪照男氏など
会員有志を中心に機運が高まり、
台北を訪問して下地が整った。同
年4月8日台湾側を(家族を含めて)
福井に招待、友好クラブ調印の運び
となった。

先の台湾地震等では、西村現会長
など有志数人が毛布・テント・簡易
食料等を持って現地へ赴き、独自
の救援活動を展開して大変喜ばれた。

昨年は先方の創立5周年記念の式
典に訪問するなど、毎年双方が家
族同伴で訪問しあい、国際親善・
親睦を深めているところである。

2月1日(金)～5日(火)、台北陽
光RC(現地名「台北陽光扶輪社」)
の会員子弟(引率者を含む14名:
男8名、女6名:14～23歳)を、
国際親善、青少年健全育成を目的
にスキーに招待、宿泊は会員宅に
ホームステイするなど改めて家庭
的な交流も深めたところである。

スキーのインストラクターは会員
やその子弟が当って付添い、一様
に「楽しかった、良い経験をした」
と喜んでくれた。

スキー研修は福井テレビ、福井新
聞に取材され、テレビでは当日の
ニュースで、福井新聞にも掲載さ
れた。新聞・テレビで報道された
ことによって、スキー研修、ホ
ームステイを通じて、我々はロー
タリー活動の目標の一つである、
地域社会に対する公共的なイメ
ージの高揚にも繋がったものと思
うところである。



姉妹クラブの台北雙園RC(3480地区)創立5周年記念式典参加

青少年委員長 田中 平八
(京都田辺RC)

当クラブとR.I.3480地区の台北雙園RC
が、1998年に姉妹クラブを締結して
以来、台湾中部大震災への救急車寄
贈、同額補助金によるモンゴルの小
学校への再建援助などの共同事業ほ
か、会員間の相互親善訪問や子供
の短期ホームステイによる文化交
流も活発に行ってきました。



2001年11月11日(月)、台北雙園RC
創立5周年記念式典に招かれて、当
クラブ会員、家族合わせて16名で参
加しました。

写真は、記念例会後当クラブ会員、
家族と台北雙園RCチャーター会
長、現会長との記念撮影です。

未来への発信

見返りを求めない奉仕



奈良RC 倍 巖 良明

入会以来5年余、当年にとって48歳、「若きロータリアン」と言われ、若いと言ってもらえるのもロータリーぐらいかな、と苦笑いしつつ「若造の癖に偉そうに……」とのお叱りも覚悟の上で原稿に向かっています。果て困った、ナマクラ坊主ながら常日頃自分に言い聞かせていることを、改めて自問しつつ書かせて頂くことに致します。

ロータリーといえば「奉仕」。仏教では彼岸（悟りの世界・理想の世界）に至る六つの実践徳目を、「六波羅蜜」と言います。その第一に「布施」が説かれています。「布施」と言えば、皆さんはお坊さんに差し上げるお礼と思われるでしょうが、広くは金品に限らず、人に施すという意味です。「布施」は「喜捨」とも言われます。「布施・喜捨」の心は、恵み施したと尊大な心を持たぬこと、施しすぎたと後悔しないこと、名誉を得る下心を持たぬこと、喜んで自分の力の限りをほうり捨てること、要するに「見返りを求めない奉仕」です。何故ならば、施した人のためにする行為ではなく、施す側が悟りに至るための行為なのです。

とは言うものの、「こんにしてやっているのに……」とつい愚痴をこぼしてしまう私達です。ロータリーの「奉仕」も自分の向上のためになされる「布施・喜捨」と、肝に銘じたいと思っています。

未知の可能性を引き出して…



高島RAC 澤 井 得 司

当地区には600名程のアクター（18～30歳までの善良な青年男女）が、個々の能力の開発にあたり、役立つ知識や技能を高め、それぞれの地域社会における物質的、あるいは社会的ニーズに取り組み、親睦と奉仕活動を通じて全世界の人々のあいだに、よりよい信頼関係を推進する機会を、ロータリアンの皆様にご提供いただいております。

当地区には37のローターアクトクラブが存在します。今年度中に1クラブ増えて、38クラブになる予定です。

現代の若者とはと、よく問題にもなり提議されます。地域社会の同世代の青年男女にも、呼びかけをすることを忘れてはならないと思います。

ローターアクトクラブは少なくとも毎月2回の定例会合を開催し、国際ロータリーは、提唱ロータリークラブが1人または数人の会員を指定して、1ヶ月に少なくとも1回はローターアクトの会合に出席されることを要請しています。

より多くのロータリアンの方々にローターアクトクラブを知って頂くため、また未知の可能性を引き出して頂くために、ローターアクトクラブの例会へ積極的にご参加くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

財団奨学生からのメッセージ

母国日本のよさ、
そしてウエールズのよさ



財団奨学生 了戒 紗世 (大津東RC)

気がつけば、奨学生として早くもウエールズに着き、7ヶ月が過ぎようとしています。日本では、ウエールズという独自性は知られていませんが、ここはイングランドとは違う「一つの国」です。小学校低学年ではウエールズ語が話されていますし、もちろんウエールズ語のテレビ番組もあります。街では至る所にウエールズ旗があり、愛国心を強く感じさせられます。それからラグビー、ウエールズ人にとっては何よりも大切なスポーツらしく、大きな大会の結果などはニュースのトップとして報道される次第です。

私はスオンジーベイロータリークラブの例会に毎週参加することを基盤として、勉強に剣道にと充実した生活を送らせて頂いています。このクラブはイギリスにあまり例を見ない女性が半数を占めるという、とてもユニークなクラブのようです。皆さんとても親切で、様々な活動に参加させていただいています。

イギリスでの唯一の難点は天候です。11月から2月頃の冬には、太陽が見られず、暗く、1ヶ月ほど毎日雨が降り続けたこともありました。しかし、そんな冬を乗り越え、ウエールズの国花、ダフデルが咲き誇り、春の訪れが感じられはじめました。

母国日本のよさ、そしてウエールズのよさ、様々なことを学ばさせていただいています。この機会を与えてくださったロータリーの皆様には、本当に感謝の念で一杯です。



真の国際交流とは



財団奨学生 亀井 伸治 (奈良RC)

情報と交通の網目が全世界を隈無く覆い尽くしているかに見える現代において、ヨーロッパが日本や中国に抱くイメージを支配しているのは、依然としてヨーロッパが自身を見るための、鏡像として造り出した幻想的トポスとしての東洋に他なりません。「オリエンタリズム」という概念に統括されてきたこうした観念や制度は、西欧近代の知の在り方に対する再検討作業の中で、いまやその虚構性を明白にされてきています。

真の国際交流とは、異文化が相互にその本質的な差異を認め合って、初めて可能であることは言うまでもありません。それには、上記のような思考は根本的な問い直しを図られなくてはならないのです。明治以来、西欧文化に追従し続けてきた結果、われわれは日本の伝統文化が持つニュアンスに対する感性を急速に喪失しつつあります。だからこそ、オリエンタリズムによる偏向を正した形での、日本人による自国イメージを改めて、自身ヨーロッパに伝達することは、異文化との最も直截的なレベルでの接触が多い留学生にとって、今日、ひときわ大きな責務の一つでもあります。古代世界における東西交流の主要交通路たるシルクロードの末端に位置し、また日本の国家基盤を形成した都市でもある奈良で生まれ育ったわたくしにとって、この度そうした伝達の一端を僅かなりとも担い得る、留学の機会を賜ったことは誠に大きな名誉であり、また喜びです。

ク ラ ブ 自 慢

グルメ同好会 - 旬をたべる会・旬をたべに行く会 -

栗原 伸治（京都西RC）

小生が会長の年度、R.I.会長 ハーバートG.ブラウン氏が来日、合同例会で特別週間の2月18日を「家庭の日」として有意義に過ごすよう指導があった。これを受けて中央卸売市場に關係する会員が世話人となって、旬をたべる会を計画。会員家族が一堂に会して新鮮な旬の味覚を賞味しながら楽しい夕食の集いを実施した。これがきっかけとなり、同年9月からグルメ同好会として - 旬をたべる会 - を発足。年に4回 - 春夏秋冬 - 蟹、河豚、鰹、鰯、鮪、松たけ、竹の子など、新鮮な食材を提供し、おいしく、安く、楽しく、新旧老若誰でも入会できる本来の親睦の場を設けることにした。

会費は1回1万円ポッキリ、すべて込込込。市場内の一番鮮度の高い場所で、原則として月曜日、例会の夜に開催。年会費4千円、座席は毎回抽せんで着席、日頃の疎遠を解消、毎回20人～30人出席。現在登録会員数約50名、次回は4月に第23回例会を開催。平成8年9月発足以来5年6カ月経過。

今年3月より新たに - 旬をたべに行く - コースを新設し、1泊2日の内外小旅行を年1回計画。第1回は3月下旬に連休を利用して、姉妹クラブのある台北へ足を運ぶことになった。

現在代表世話人、西村（義）、そして遠藤、高田の計4人で対応している。

- 1万円も手間ひまかけるとこんな値打に -



量から質への確かな歩み

坂口 哲（野洲RC）

高雄東北RCと1989年に姉妹クラブとしての提携を結び、爾来、相互間の友好親善のためのゴルフコンペを毎年開催。両クラブからの参加者は優に350名を超えております。また周年の記念式典への公式訪問も続いており、今年も高雄東北RCの19周年記念式典に、小村会長、上田国際奉仕委員長以下計6名が参加して参りました。

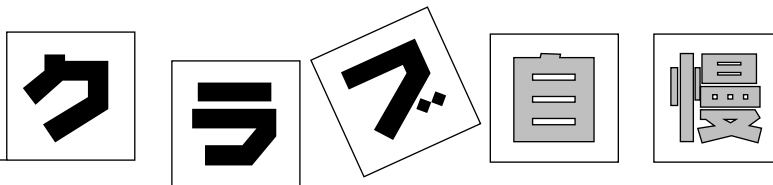
昨年、大連でゴルフコンペを開催、相互間の友好親善に留まらず、更に意義ある奉仕活動を展開しようではないかとの発案があり、協議の結果R.I.同額補助制度への申請を通じて人道的国際奉仕プロジェクトを実施しようとの合意が成立しました。

フィリピン・リンガエンRCとの提携のもとに、アンダ島の畜産場建設への資金援助がプロジェクトとして採択され実施に移されました。

国際青少年交換事業には、93年オーストラリアへの派遣、及び受入れから制度への参加を開始し、本年まで毎年相互交換を続けており、双方のクラブの子弟のショートホームステイも隔年で実施しております。

明年は当クラブも創立20周年を迎えます。この間の歴史的な歩みを顧みますと“量から質へ”の着実な転換が行われ、更なる充実の未知を歩んでいるのではないかと秘かに自負しております。





日本文化に触れる 楽しみな「炉中会」(茶道同好会) 大塚 棟弘(京都中RC)

通常、茶道同好会と聞けばただ堅苦しいお稽古ばかりと想像されると思いますが、我が京都中ロータリークラブの茶道同好会「炉中会(ロチュウカイ)」は非常にユニークな活動を行っております。

炉中会の指導をお願いしており、メンバーでもある渡邊宗修先生ご自身が非常にフランクなお考えの先生で、「50歳を過ぎた男性が今更お手前等の作法を勉強しても覚えられないし、また覚えたところで実際に人前でやることは殆どない。」という考えから、わが同好会では茶道の色々な行事やお遊びから、茶道文化を知る、日本の歴史を知る、といった茶道を通じて男の教養を学ぶことを同好会の活動とし毎回13名程の参加があります。

例えば、昨年8月にはお茶を戴く前に「お香」を聴き、そのお題を入れた和歌を各人で読み、短冊に書き、皆さんの前で読めば昔の貴族か武将になったような、心から優雅な気分になることができました。

また、昨年12月には国宝の日本最初の茶室と言われていす京都大山崎、妙喜庵にあります「待庵」を、日本建築専門の中村利則先生の解説で半日説明を受け、「待庵」の茶室を実際に拝見し、千利休と豊臣秀吉の時代や人間関係に思いを馳せ、その後長岡天満宮のほとりでゆっくりお茶を戴きました。

このように、炉中会では毎回お茶を戴く前や、戴く時に何かお茶を通して日本文化に触れることで、少しでも普段触れることのできない体験をさせて戴いております。

これも、ロータリーだからこそ味わえる経験だと喜んでおります。

なお、当会ではお茶を戴いた後、必ずご馳走を戴き美味しいお酒を大いに味わい、ロータリー談義に華を咲かせます(これがまた楽しみの一つでもあります)。



青少年問題への関心

渡辺 政士(福井南RC)

青少年特に子供の問題について、ロータリアンとしても無関心ではられない状況にあります。「いじめ」「不登校」など多くの問題を抱えており、青少年委員会が取り組む重要な課題であります。

勝山市にあり、私学で自由な学校『かつやま子供の村小中学校』を見学。本学校の理事長及び校長を交えて教育研究会を開き、文部科学省の教育方針に全く依存しない自由な発想のもと、伸び伸びした教育が子供の人生に大きな生き甲斐を与えている姿を見ました。

子供の教育で大切なのは、家庭における幼児教育だと考え、福井市内の比較的大人数の幼稚園、福井市昭和幼稚園(児童数120名)を選択し、家庭における「しつけ」についてフォーラムを開催しました。多くのお母さん方に集まって戴き「しつけの知恵」のテーマのもと基調講演を行ったり、お母さん方と共にミーティングを行い、子育て論の勉強と共にロータリーを知らなかったお母さん方にロータリーの事業を理解して戴き、ロータリーの啓蒙にも大いに役立ちました。

国際奉仕委員会及び姉妹クラブ友好委員会とも連携。友好クラブの会員子弟と相互交換も実施し、初めてのケースとしての事業も大きく成功し、青少年問題への大きな取り組みとなりました。



クラブ内でもロータリー研究会に於て、青少年問題のテーマとして「子育て論教育フォーラム」に取り組んでいます。

教育には長い時間とたゆまぬ努力が必要で、単年度事業に終止せず、2年、3年、5年、10年と息長く継続して初めて効果の出るものと信じます。

「教育への無関心は後世への大きな^{ツケ}付となる」ことを忘れないロータリアンになりたいものです。